

笠尾山周辺整備事業に関する サウンディング型市場調査の実施結果



令和8年1月 関ヶ原町

サウンディング型市場調査の概要

目的

関ヶ原町は慶長5(1600)年に関ヶ原の戦いが行われた古戦場として、石田三成が本陣を置いた 笹尾山を含めた9つの史跡が国指定史跡(昭和6年3月30日指定)となっており、これまで整備してきました。

令和7年3月に古戦場見学の中心地となっている 笹尾山への更なる周遊を促すため、「 笹尾山周辺整備基本計画」を策定し、往時の景観復元・再生と未来への継承・観光客と地域住民の交流を通した史跡の活用の実現を目指しています。

本調査では、民間事業者に対して、広大な敷地整備及びガイダンス施設の整備提案を募ることを目的として、調査を実施しました。

スケジュール

内容	日程
実施方針の公表	令和7年8月18日(月)
現地見学参加申込期間	令和7年8月25日(月)~9月3日(水)
現地見学	令和7年9月15日(祝・月)、9月18日(木)
質問の提出期間	令和7年8月25日(月)~9月3日(水)
質問の回答	令和7年9月5日(金)
サウンディング参加申込期間	令和7年8月25日(月)~9月19日(金)
サウンディング実施日時及び場所の連絡	令和7年9月24日(水)
提案書の提出期間(任意)	令和7年8月25日(月)~10月1日(水)
サウンディングの実施	令和7年10月15日(水)~11月7日(金)
実施結果概要の公表	令和8年1月下旬

参加事業者

申込みのあった事業者に対して現地見学会及び個別対話(ヒアリング)を実施しました。

現地見学会及び個別対話には、以下の業種別事業者及び個人が参加しました。

1)企画・運営会社 2)設計会社 3)維持管理会社 4)個人

業種	事業者	現地見学会	個別対話
企画・運営	A社	○	○
	B社	○	○
	C社	○	○
設計	D社	○	○
	E社		○
維持管理	F社	○	○
個人	G社	○	○
合計		6社	7社



決戦地

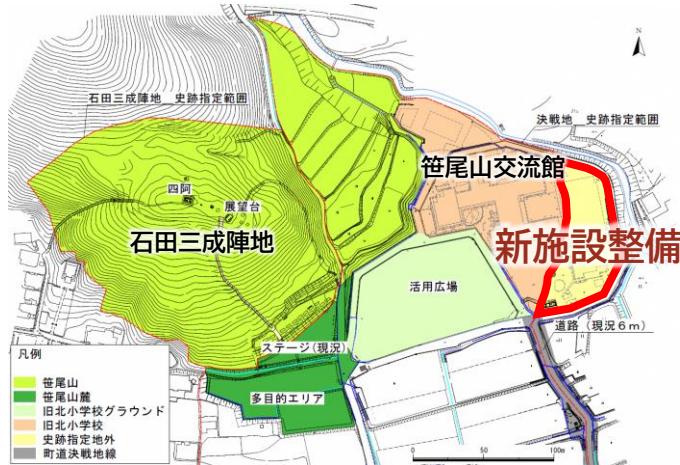


石田三成陣地

サウンディング型市場調査の概要

対象地の概要

対象範囲は、 笹尾山周辺整備基本計画の計画範囲です。旧北小学校(笹尾山交流館)を解体し、周辺との一体整備を計画しています。



所在地	岐阜県不破郡関ヶ原町大字関ヶ原1167番地の3 ほか
敷地面積	約64,961m ² うち旧北小学校敷地20,934m ²
土地の権利等	関ヶ原町及び私有地
概要	国史跡指定地 61,425m ² 町有地(ガイダンス施設、駐車場用地)3,536m ²
法的規制	文化財保護法(国指定史跡) 自然公園法(第3種特別地域) 関ヶ原町景観条例(重要眺望区域)
現況	山林、農地、学校敷地
周辺施設	岐阜関ヶ原古戦場記念館(徒歩15分)
交通アクセス	JR関ヶ原駅から徒歩20分

質問項目

- 本事業への参画イメージについて
- ガイダンス施設の整備提案について
- 本史跡の活用提案について
- 岐阜関ヶ原古戦場記念館と点在する史跡との連携手法について
- 参入する場合の範囲及び形態について
- 本事業への参入のタイミングについて
- 収益源となる事業の可能性について
- 官民連携のあり方・支援の必要性について
- 地域住民や地元団体(観光協会・商工会等)との協働意欲について
- 今後の事業展開を考える上でのポテンシャルや課題について
- その他



既存の笹尾山交流館

1. 本事業への参画イメージについて

○新施設(=ガイダンス施設)整備の設計・施工・運営等

- ・設計、施工、施工管理から関わりたい、あるいは運営側の視点からの提案を希望するとの意見がありました。

○活用広場や多目的エリアにおけるソフト事業(企画・運営等)

- ・岐阜関ヶ原古戦場記念館との差別化を図ったうえで、体感と実際に体を動かす体験を重視した方が良いとの意見がありました。
- ・戦国武将関連テーマの企画をしてはどうかとの意見がありました。

○ 笹尾山全体の維持管理

- ・例えば、武具や戦場体験といったソフト事業と維持管理を一体で運営してはどうかとの意見がありました。

(想定:地元事業者との共同企業体(ジョイント・ベンチャー/JV))

主な意見要旨(抜粋)

<企画・運営>

- ・活用広場や多目的エリアにおけるソフト事業の企画や運営等を実施する。
- ・事業への企画提案者として参画する。
- ・事業の核として「体感と体験」を重視すると良い。
- ・岐阜関ヶ原古戦場記念館が「入門編」であるのに対し、笹尾山のガイダンス施設は「よりディープな知識」を提供する場として住み分けを図る。
- ・武将に関連する薬草を活かした活用が望ましい。
- ・アーティスト・イン・レジデンスの進行等の企画業務、コンセプトワーク、関係機関との調整・折衝等で関わりたい。
- ・指定管理・コミュニティマネジメント業務(運営事務)を想定している。
- ・運営側の視点から内装や設備等に関する提案は設計段階から行いたい。
- ・ソフト事業と維持管理は一体で運営する必要がある。イベント開催時の運営や維持管理は、地元の事業者とのJVを組み対応することを想定している。
- ・現状は「何もない」からこそ、新しいことが何でもできるのではないか。

<設計>

- ・ガイダンス施設の設計・施工での関わりを主に考えている。屋外空間や史跡の維持管理の実績はないが、美術館・博物館等の運営実績がある。
- ・ガイダンス施設の設計及び工事監理での参画を想定している。
- ・運営事業者が決定しているのであれば、その事業者と協議しながら設計に反映させることができる。
- ・岐阜関ヶ原古戦場記念館は、映像による没入型の体験施設となっているので、本施設では、実際体を動かす体験施設があると良い。ゲーム感覚で鉄砲体験ができる事例があり、歴史上の戦の内容に変更し、火縄銃体験や騎乗体験をゲーム感覚で行うことができる施設が考えられる。

<維持管理>

- ・ 笹尾山全体の維持管理は、緑地管理が本業であるため最も得意としている。
- ・ 多目的エリアにおけるソフト事業は対応可能であるが、人員的な課題がある。

2. ガイダンス施設の整備提案について

○カフェ・休憩スペース

- ・12～3月の閑散期の運用方法について十分な検討が必要との意見がありました。
- ・初期投資を抑え、柔軟な運用が可能なキッチンカーを想定すべき、自動販売機も検討してはどうかとの意見がありました。
- ・民間企業の進出は見込めないかもしれないが、地元関係者なら可能かもしれないとの意見がありました。

○その他

- ・(笹尾山を登山できない方も視野に入れ) デジタル技術による疑似体験機会を提供してはどうかとの意見がありました。



----- 主な意見要旨(抜粋) -----

<企画・運営>

- ・ 関ヶ原の歴史に特化しすぎず、ターゲットを広げた方が良い。年間を通じた活用を考え、薬草を一つのコンテンツとして取り入れることを提案する。
- ・ カフェ運営は、テイクアウト形式にすれば、事業者が参入しやすい。
- ・ カフェなどを誘致する際、民間はかなりの収益が見込めないと難しいと思うが、地元で募集すれば運営できる事業者はいると思う。
- ・ テーマとして「生け花」に着目した。武将の精神性や内面的なものが「生け花」という形で残っており、町を巡る「赤道」が花道になっていれば回遊する。
- ・ 花を栽培・販売し、そこにカフェが併設されている形であれば、生け花をやる人等が集まるのではないか。地域の資源を活用する形も可能性がある。
- ・ 笹尾山から見える景色をデジタル技術でAR/VRやプロジェクションマッピングを活用し、目の前に軍勢が見えるようなリアルな合戦体験を提供する。休憩スペースや土産づくり体験の機能により、滞在時間を延ばす工夫をしたい。
- ・ 飲食提供について、通年の運営は難しい。キッチンカーの営業となることが想定されるため、インフラを整備しイベントに合わせて柔軟に運用することが望ましい。キッチンカーを地元枠とし貸し出すことも検討可能である。

<設計>

- ・ デジタルツールを活用した体験アイテムの導入、観光案内機能の充実、甲冑着付け体験の充実、関ヶ原町ならではのフォトスポットの整備、キッズスペースの整備を行うと良いと考えている。
- ・ 笹尾山を登ることが困難な来訪者のために、登頂の代わりとなるような「体験」ができる施設であると良い。
- ・ 当施設が利用者から利用料金をとり運営するような施設は難しいと感じている。一方、イベントを行いながら集客していくことであれば検討可能である。閑散期の運用方法の検討は必要である。
- ・ 飲食機能については、常設店舗はランニングコストがかかるため、イベント的にキッチンカーを誘致する方が良い。常設の飲食として、自動販売機等の仕組みも考えられる。
- ・ 飲食スペースの規模として、大きいものであれば150m²程度必要だが、バックヤードが30m²程度あり、残りはフリースペースといった作り方も検討の可能性があると考えられる。
- ・ 現代的なデザインであっても、周囲の景観に馴染んでいれば良いのではないか。最も重要なのは、建物が威圧感を与えないことである。

<維持管理>

- ・ 古戦場記念館と機能が重複する懸念がある。記念館は、「情報・学習」をメインとし、笹尾山は「現地体感・遊び」といった、明確な差別化が必要である。

3. 本史跡の活用提案について

○ソフト事業・イベント

- ・しばらくは一定集客が見込める核となるイベント、出店機会を確保するマルシェとの同時開催が必要であるとの意見がありました。
- ・常に提供できる体験コンテンツや、キッチンカーの進出機会の確保等が必要との意見がありました。

○年間を通じた活用

- ・四季の花に関する取組み、季節に左右されない企業研修、イベントの場所貸し等が考えられるのではないかとの意見がありました。



主な意見要旨(抜粋)

<企画・運営>

- ・「高校生いけばなバトル」のようなイベントを関ヶ原の素材(歴史・花)を活かして誘致してはどうか。
- ・修学旅行向けに史跡めぐりのオリエンテーリング等を組み込んだプログラムを開発。修学旅行での体験は、将来的なリピーター、例えば家族連れての再訪等につながる可能性がある。
- ・修学旅行やフィールドワーク等を受け入れ、教育・学習利用の拠点として活用する。また、閑散期の対策として、企業研修やゼミ合宿等、季節に関係なく動く層を誘致してはどうか。
- ・スポーツチャンバラ等、常に体験できるようなコンテンツとして整備してはどうか。
- ・山の中で映画祭をやるよう、笠尾山の屋外でVR映像を見せるようなことも考えられる。
- ・大学と連携し、芸術家に滞在・制作してもらう取り組みをデジタルの分野で実施する。
- ・「体感と体験」を重視。武具体験、弓矢体験、戦場体験、模型による古戦場の地形再現、AR/VRの活用、イベントの実施等「よりディープな知識」を提供する。AR/VRは、事業者側で開発ベースを持っており、比較的低成本で簡易なアプリ開発やコンテンツ制作も可能である。

<設計>

- ・VR等最新技術はガイダンス施設内で取り入れ可能である。イベント開催は、自主事業(体験料徴収)では困難だが、場所貸し(キッチンカー誘致等)なら可能である。
- ・甲冑体験のような体験型コンテンツは、外国人観光客に喜ばれる傾向がある。
- ・冬期の来客減対策については、寒さを活かし、ソリ遊びや雪合戦、焚き火等の体験等が考えられる。
- ・集客イベントとして、日本酒の酒蔵イベントやマルシェの開催等が考えられる。

<維持管理>

- ・里山の原風景づくりとして、四季の花を楽しめるよう整備すれば、お金をかけずに人を呼べる。
- ・コスプレイベント等、歴史に興味のない層を呼び込む「場所貸し」としての活用も考えられる。

4. 岐阜関ヶ原古戦場記念館と点在する史跡との連携手法について

- ・ 笹尾山を拠点とし、ARスタンプラリーを岐阜関ヶ原古戦場記念館、点在する史跡に準備、周遊促進を図った方が良いとの意見がありました。
- ・ 記念館と笹尾山をつなぐアクセスの確保、例えば、電動モビリティ等はどうかとの意見がありました。



----- 主な意見要旨(抜粋) -----

<企画・運営>

- ・ 観光客誘致だけでなく、地元住民との関わりを持つ仕組みが必要である。
- ・ 記念館には来ても笹尾山等の史跡まで回遊していない。記念館と史跡を結ぶ交通手段の確保が必要である。
- ・ 「交通手段がない」「坂が大変」という意見があることに対し、歩くことを推進している例がある。
- ・ ARスタンプラリーを他の史跡にも配置する。笹尾山をスタート/ゴール地点と位置付ける。
- ・ 笹尾山や駅前の交流館をレンタサイクルや電動モビリティのベースとすることも考えられる。
- ・ AR/VRアプリ等を活用したデジタルスタンプラリー等、点在する各陣跡への周遊を促す仕組みの拠点として笹尾山を活用したい。
- ・ 史跡周遊のための交通手段やバリアフリー対応が課題。低速モビリティの導入は、補助金活用の可能性も含め検討してはどうか。

<設計>

- ・ 既存のボランティア等と民間事業者がスムーズに連携できるよう、町からの協力要請等の配慮が必要である。
- ・ 県、町、事業者、運営者が集まり、エリア全体の発信等を議論する「会議体」の設置を提案する。
- ・ 気軽な交通手段として、トラムや観光バス、ゴルフカート等が考えられる。一方で、公道を走行するには、法的なハードルが高いと思われる。
- ・ 笹尾山の目立つ立地にあることを生かし、寄ってみたいと思わせるような外観にすることも、誘客の仕掛けとして有効ではないか。

<維持管理>

- ・ 周遊バスのニーズはある。自転車では、体力的に厳しい層もいる。グリーンシーズンにおける町営バスやバッテリーカーを運用してはどうか。

5. 参入する場合の範囲及び形態について

- ・自主事業の裁量があり、町のパートナーとなって柔軟な提案をすることができる指定管理者制度の導入が望ましいとの意見がありました。
- ・あわせて、地元維持管理、コンテンツ制作、民泊運営等複数企業によるJVやDMO等の想定だが、単独参入は困難との意見がありました。
- ・町からの業務委託が望ましいとの意見もありました。



主な意見要旨(抜粋)

企画・運営

- ・ 観光地域づくり法人(DMO)のような体制を組織し、各事業者が得意分野で参画する形が望ましい。
- ・ 単独での参入は難しいため、建設設計会社、施工会社、または指定管理事業者と連携する。一方、町からの業務委託が最も安全だと考えている。
- ・ 地元の維持管理会社やコンテンツ作成会社等の複数企業によるJVでの参入を想定。指定管理者制度は、事業者側も自主事業等の裁量を持ちやすく、パートナーとして柔軟な提案ができる。

設計

- ・ ガイダンス施設の空間づくり(展示)への参画は、単独での設計・施工業務(委託)を想定している。建築と展示のJVも可能だが、企画側と密に連携するため、展示は別発注が理想である。DBOやPFI等の場合、建設費に予算が圧迫され、展示予算が少なくなる懸念がある。
- ・ 施工業者との関わり方については、JV(共同企業体)、単独でも対応可能である。
- ・ DB方式については経験がない。施工の予算や規模が小さいと参加しづらいと考えられる。単に建築の詳細設計業務として委託してもらえると良い。
- ・ ガイダンス施設は、史跡の指定範囲外であるため、どこまでの裁量があるか、どのような事業の幅をもつことができるのか探りたい。
- ・ 予算規模が小さいため、最適な事業チームをコンソーシアムとして作れるかわからないのがリスクである。

維持管理

- ・ 「委託」が望ましい。JVの代表企業としての参画は望まない。一方、指定管理者の下請けやJVの協力会社として維持管理部分を担うことは可能である。
- ・ 設計段階から情報共有や意見交換に参加し、メンテナンスに関する意見を反映させる機会が必要である。
- ・ イベント開催を優先し、芝生等の緑地へのダメージを考慮しない運営は認められない。現地の状態維持とイベントは共生すべきである。

6. 本事業への参入のタイミングについて

- ・展示レイアウト及び必要な設備等の運営面につき、ガイダンス施設建築の基本設計から反映させたいとの意見が多数ありました。
- ・整備後のメンテナンスも見据えた意見交換の機会を確保、その場での意見を設計に反映させることが重要との意見もありました。



主な意見要旨(抜粋)

<企画・運営>

- ・令和10年度からガイダンス施設の工事着手を予定しているが、運営事業者の立場からすると、スケジュールがタイトに感じる可能性がある。
- ・設計段階から、どんな建物を建てるかの意見交換の場から参加したい。
- ・基本構想や基本計画等の計画策定段階から関わりたい。
- ・ガイダンス施設等の整備(設計)段階から参入することが望ましい。運営面を考え、建築の基本設計段階から反映させていく必要がある。
- ・全体のプランニングについても、コンセプトに基づいた提案は可能である。

<設計>

- ・スケジュール(R13供用開始予定)は妥当である。展示別発注の場合、建築設計(R10実施予定)と展示設計を並行して進める方が、相互の意見調整の観点からスムーズである。
- ・基本設計・実施設計の段階からの参画を想定している。
- ・求められる内容や機能によるが、施設規模は600m²程度であるため、基本設計と実施設計を複数年に分ける必要はなく、単年度でまとめることは可能である。
- ・設計業務をスムーズに行うため、設計着手前に諸条件を整理・決定していただきたい。

<維持管理>

- ・維持管理を担う前提であれば、設計段階から情報共有や意見交換に参加したい。芝生の散水栓の位置や配管等、整備後の維持管理コスト等のメンテナンスに関する意見を設計に反映させることが、維持管理事業者にとって重要である。

7. 収益源となる事業の可能性について

- ・Park-PFIのような施設整備と一体の収益モデルの実施は困難との意見がありました。
- ・飲食、イベント(スタジオ活用、チケット販売等)、場所貸し(キッチンカー等)について可能性があるとの意見がありました。



主な意見要旨(抜粋)

<企画・運営>

- ・薬草を活用したイベント、テイクアウト型のカフェ、ヨガ教室(スタジオ活用)、甲冑体験、スポーツチャンバラ等を提案する。
- ・ガイダンス施設での収益を考えるなら、明確なテーマを持つことが重要である。
- ・「関ヶ原の戦い」という歴史は他にはない資源であり、そこで育つ花や植物は競争力がある。
- ・ボランティアは質に差が出るため、適正な料金を徴収し、ガイドを育成すべきである。視察受け入れは、経費で支払うため、収益事業となる可能性がある。史跡活用のモデルケースとなれば、視察需要は必ず生まれる。「本物の場所で学ぶ」という付加価値が経営層に響く。
- ・収益源は、飲食の提供とイベントのチケット販売、体験料金が収益源となる。自由に出店できる仕組みや地域を巻き込む形が必要。

<設計>

- ・民間による自主事業(体験料徴収)での採算確保は困難である。広場等の場所貸しをして、キッチンカーの出店料等を収益で得る等の可能性はある。

<維持管理>

- ・自社で収益事業を行うことは考えていない。予算の中で最上の状態を提供するのが基本スタンスであり、運営や収益事業とは分離して考えたい。
- ・Park-PFIのような施設整備と一体の収益モデルは、規制がありハードルが高く、考えていない。

8. 官民連携のあり方・支援の必要性について

- ・町によるインフラ整備(電気等)や施設整備(倉庫等)、効率・省人化に係る初期投資等が望ましいとの意見がありました。
- ・民間企業と町が営業ベース以外で対話する機会の確保、町と連携した広報活動が必要であるとの意見がありました。
- ・閑散期に係る一定の支援(例:収入減に伴う一定の補填)、中長期的な視点を見据えた将来的な担い手確保・育成について検討することが望ましいとの意見がありました。



主な意見要旨(抜粋)

<企画・運営>

- ・行政による過度な財政支援は、民間事業者の経営努力を阻害する可能性がある。
- ・集客が激減する冬季(12月～3月)の運営は厳しく、この期間の赤字補填等、何らかの公的な財政支援がなければ参入は難しい。
- ・行政には、出店料徴収等のイベント開催時の調整や事業者が気軽に相談できる窓口機能を期待する。
- ・財政的な支援よりも、民間企業と行政が営業ベース以外で対話する機会を設けることが最も重要である。
- ・地元の人たちと(事業者や外部の人間が)関わる接点、話し合う機会を作つてほしい。
- ・町と連携した広報活動の実施。
- ・補助金の活用について、行政が主体となった情報整理や協議・支援を期待する。
- ・道具等の保管場所の提供や夜間の防犯や警備に関する協力をお願いしたい。

<設計>

- ・民間の自主投資や独立採算での運営は困難であり、施設整備や財政支援は公共事業として実施する必要がある。
- ・民間事業者で、投資をしてカフェ等を運営することは難しいと考えている。また、エリア全体のPRは町主体で実施してほしいと考えている。
- ・設計の前段階(R9頃)で、展示内容を固める基本計画のステップを別業務として発注してもらうことが望ましい。
- ・設計業務の対価が支払われるのであれば、特別な財政支援等は必要ない。

<維持管理>

- ・赤字受注はできないため、収支計画が成立することが前提となる。維持管理業務の収支が赤字になる場合、効率化・省人化できる「施設設備」のイニシャルコスト支援等の整備支援があると参入しやすい。
- ・「PR支援」による集客支援が必要になる。
- ・将来的な担い手確保・育成も課題である。

9. 地域住民や地元団体(観光協会・商工会等)との協働意欲について

- ・地域住民や地元団体との協働意欲の高い事業者が多くなっており、地域の方と積極的に連携したいという意見がありました。
- ・民間事業者と地域住民や地元団体と認識合わせの場、地域住民が置き去りにされない仕組みづくりが必要という意見がありました。



----- 主な意見要旨(抜粋) -----

<企画・運営>

- ・ 地元住民が置き去りにされない仕組みづくりが重要である。
- ・ 観光協会・商工会等が主体的にアイデアを募る等、働きかけがあれば協力は可能である。
- ・ 地元の方々の関わりなしに事業を進めるのは難しい。地元の人たちと話し合う機会、接点を持つ機会を行政が作っていくことが重要である。
- ・ 地元との協働意欲は非常に高い。観光事業を地域に根差した産業にしたいと考えている。
- ・ 事業者が町外・県外ばかりで地域住民が置いていかれる状況を防ぐことを最優先すべきである。
- ・ 地域住民や地元団体との協働は必須である。一方、町外と町内の温度差が懸念点である。
- ・ 商工会や観光協会等と認識合わせを行う場が必要である。
- ・ ボランティアガイド等、熱意のある方々とは積極的に連携したい。

<設計>

- ・ 既存のボランティア等と民間事業者がスムーズに連携できるよう、町からの配慮を求める。
- ・ 住民参加のワークショップの経験がある。業務の条件として求められるのであれば対応可能である。

<維持管理>

- ・ 維持管理業務において、芝刈りを地域のボランティア団体が担い、薬剤散布や技術的な監督を自社が担うといった協働は可能である。
- ・ 観光協会や盛り上げ隊が、グッズ制作・販売等で積極的な関与を期待する。

10. 今後の事業展開を考える上でのポテンシャルや課題について

○ポテンシャル

- ・関ヶ原のネームバリュー、岐阜関ヶ原古戦場記念館、東西の分かれ目、何もないからこそ新たにできるチャンスとの意見がありました。

○課題・懸念点

- ・地元(団体)との温度差、通年雇用の維持(閑散期どうするか)、滞在時間が短いといった課題や懸念点があるとの意見がありました。

----- 主な意見要旨(抜粋) -----

<企画・運営>

- ・歴史好き、「刀剣乱舞」ファン等の女性客が一定数存在する。
- ・記念館から 笹尾山への動線が弱く、 笹尾山単体での集客はイベント等に依存せざるを得ない点が懸念される。
- ・地元の人たちをどう巻き込んでいくかが課題である。
- ・関ヶ原町の歴史的なブランド力、知名度が非常に高い。
- ・中長期的な方針を示し続け、オーバーツーリズム等観光へのネガティブな風潮が出た際にも、投資を継続できる動機付けが必要である。
- ・関ヶ原のネームバリューは非常に高い。「東西の分かれ目」というテーマは、関ヶ原でしかできない強力なコンテンツである。一方、ネームバリューに対し、訪問者に提供できているコンテンツが不十分である。
- ・現状は、来訪者の滞在時間が非常に短い。
- ・ 笹尾山周辺は、往時の雰囲気に近く、体感・体験に適している。
- ・飲食提供を強化した場合、ゴミの増加が予想される。

<設計>

- ・「関ヶ原」の知名度、記念館の集客力は高いが、対象地は幹線道路から奥まっており、通りがかりの集客は難しい。
- ・記念館とは取り込むターゲット層を変え、子育て層、アクティブな層、インバウンド層に特化するべきである。
- ・冬場の積雪対策や臨時休館の有無の検討と、それに伴う通年雇用の問題は検討すべきである。
- ・ポテンシャルとして、国道沿いで目立つ立地であることが挙げられる。
- ・記念館の来訪者をいかにして、 笹尾山まで誘導するかが課題である。誘導が上手くいかないと、施設を整備しても現状と変わらない。

<維持管理>

- ・記念館で学習・体験が完結してしまう。
- ・史跡管理区域等の規制により、収益事業のためのゾーニングが困難である。
- ・町民の盛り上がりが欠けている。町民の意識醸成まで行政の体力が続くかが懸念される。

11. その他

- ・町外の民間事業者が参画しても町全体の動きに繋がらないと懸念する意見がありました。
- ・将来的に道の駅のような施設と連携、「新しい歴史をつくる」という視点が必要といった将来を見据えた意見がありました。
- ・ガイダンス施設の設計及び工事費に関する意見がありました。



----- 主な意見要旨(抜粋) -----

<企画・運営>

- ・町外の事業者が参画しても、町全体の動きに繋がらない。
- ・民間事業が活動しやすくなるよう、行政の「お墨付き」による安心感の担保を期待する。
- ・「新しい歴史をつくる」という視点が町には必要ではないか。
- ・将来的に道の駅のような施設と連携ができれば、事業の相乗効果が期待できる。

<設計>

- ・鉄骨造よりも木造の方が工事費は安価であるが鉄骨造の方が設計しやすい。
- ・建設費等の高騰により、工事費は1.5倍程度になっている。
- ・大屋根や深い庇のあるデザインは、坪単価が割高になる傾向がある。

サウンディング調査結果・今後の方針

1) 本事業への関心度

参加いただいた7事業者等は概ね事業への関心があり、町内外様々な業種の事業者・個人の方に対話させていただきました。

2) 参入の可能性

ガイダンス施設は民間事業者主体による独立採算での運営は難しいが、指定管理者制度の活用や町委託事業であれば参入の可能性があります。

3) ガイダンス施設のあり方

岐阜関ヶ原古戦場記念館との差別化を図り、 笹尾山への周遊を促す一助となるガイダンス施設の整備を検討していきます。

4) 管理運営手法

年間を通じて 笹尾山に訪れてもらえるように、ガイダンス施設整備だけでなくソフト事業を創意工夫して、継続的な事業運営ができる仕組みを検討することが必要です。

5) 記念館を中心とした古戦場全体の可能性や将来性

「関ヶ原」や「天下分け目」といったネームバリューを活かした”ここでしかできない”事業を展開することで、事業の魅力を高めることが必要です。

6) 民間事業者の参入の関わり方

多岐にわたる事業であることから、検討段階から、様々な関係事業者や地域住民と意見交換の場を設ける等により、事業化に向けた確度を高めていく必要があります。

今後の方針

今回のサウンディング調査により、 笹尾山周辺の史跡及びガイダンス施設の整備の事業化に関する意見をいただきました。本調査結果を踏まえて、史跡の活用及びガイダンス施設の整備、事業スキーム等、より良い事業に繋がるよう事業者との対話を引き続き行うとともに、事業者募集・選定に向けた検討を進めます。